

【 取 扱 説 明 書 】

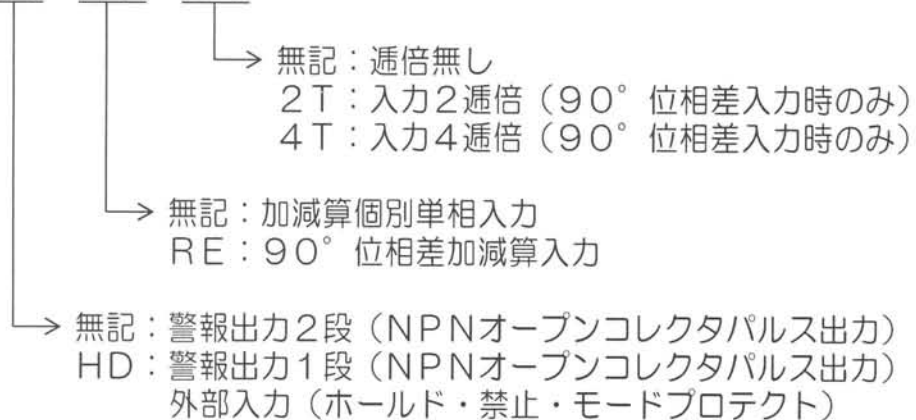
小型加減算カウンタ

MODEL : CU - 6 4 8

このたびは弊社製品をお求めいただきまして、誠にありがとうございます。
この説明書をよくお読みになって、安全に正しくご使用ください。

製品仕様・モデル名〔例〕

CU-648-HD-RE-2T



【注意】 ご使用の前に、ご希望の製品仕様と製品本体のラベルに捺印されている
モデル名とが一致しているかご確認ください。
相違がありましたら取扱店、または弊社までご連絡ください。

製品を安全にご使用いただくため、下記の注意事項と本書をご一読されますようお願い申し上げます。

⚠ 注意

1. 製品仕様以外では使用しないでください。
2. お客様による製品の改造や変更は、本来の性能を発揮できないばかりか、不適合や事故の原因となります。改造や変更は行わないでください。
3. 直射日光はさけ、定格をこえる温湿度の場所や結露の起きやすい場所では使用しないでください。
4. 可燃性ガスや発火物のある場所では使用しないでください。
5. 本体に激しい振動や衝撃を与えないでください。
6. 本体に金属粉・ほこり・水などが入らないようにしてください。
7. ノイズの発生源、ノイズがのった強電線から入力信号線の配線、および製品本体を離してください。
8. 配線時は必ず電源を切って作業してください。

ユーアイニクス株式会社

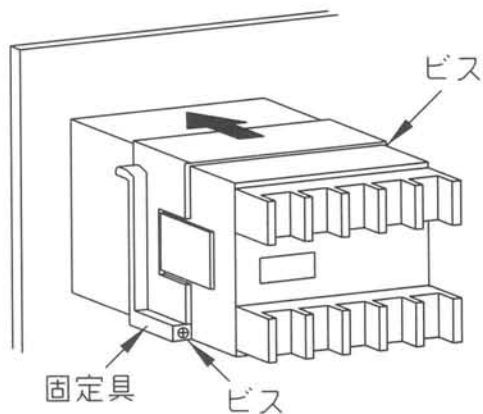
1. 仕様

項目	仕様	
積算計測	表示器	赤色LED5桁表示 文字高：8mm（表示範囲 -9999～0～99999）
	スケールリング	9999～1×10 ⁻⁹ で任意に設定
	小数点以下表示	小数点以下1桁～3桁まで表示選択可能（固定小数点演算）
	オーバー表示	3パターンより選択設定 1. 5桁オーバーを3ラウンドで点滅表示 2. 5桁オーバー後、再カウントのエンドレス 3. 5桁オーバー後、表示を×10してカウント、再度の5桁オーバーで点滅表示
	表示オフセット	表示オフセット値設定モードによりリセット後の表示値を -9999～99999 の範囲で任意に設定可
リセット	リセット機能	積算計測のリセット、および警報出力の解除
	キー入力	フロント部リセットキー リセットが機能するまでの時間を即・1秒・2秒の3段階より選択設定（リセットキー無効も設定可能）
	端子台入力	端子台リセット（端子台4～5間）0.1秒以上ON NPNオープンコレクタパルス出力、または有接点出力を受け付け
センサ入力	入力信号（スイッチ切換式）	NPNオープンコレクタパルス入力（MIN10mA以上）または無電圧接点電圧パルス入力：LOW 2.0V以下 HI 3.8～30V
	REオプション	90°位相差入力で加減算表示
	入力応答周波数 但しduty50%時	0Hz～50Hz（LOW）：高いノイズ成分は受け付けません。 0Hz～10kHz（HI）：高い周波数まで応答します。 ※1
	センサ電源	DC+12V 50mA MAX（安定化）出力
警報出力	出力形式	上限値および下限値（任意に設定）と比較により判定出力 出力幅は設定値を選択設定
	出力方法	NPNオープンコレクタパルス出力2段 最大定格：DC30V 50mA
	出力表示	各警報出力中OUT1、OUT2 LEDランプ点灯
	出力リセット	フロント部リセットキー、および端子台リセット入力
外部入力	HDオプション 入力信号	端子台4～10間、0.1秒以上ON（警報出力はOUT1の1段となります。） （NPNオープンコレクタパルス出力、または有接点出力を受け付け）
	外部入力機能	モード設定により禁止・ホールド・モードプロテクトを選択設定
	禁止	選択時、端子台ONの間、センサ入力を受け付けない
	ホールド	選択時、端子台ONの間、現在の表示値を保持し、点滅表示
モードプロテクト	選択時、端子台ONの間、設定値の変更無効	
その他	電源・消費電力	DC12～24V±10% 約2.5VA
	データバックアップ	各設定値をEEPROMに書き込み （書き換え回数10万回以内、約10年間保持） 積算計測値データを約1ヶ月保持（フル充電、周囲温度20℃時） ゴールドキャパ0.22F内蔵 充電時間3時間以上
	使用温湿度範囲	0～50℃ 30～80%RH（但し、結露しないこと）
	重量・外形寸法	約120g W48×H48×D92mm

※1 注意：入力応答周波数は2通倍時は1/2、4通倍時は1/4となります。

2. 指示計（カウンタ）の取り付けかた

1. パネルカットして、前面より指示計（カウンタ）を挿入してください。
2. 背面より固定具をスライドさせて、本体を固定してください。この時、固定がゆるい場合は、ビスを少し締めてください。

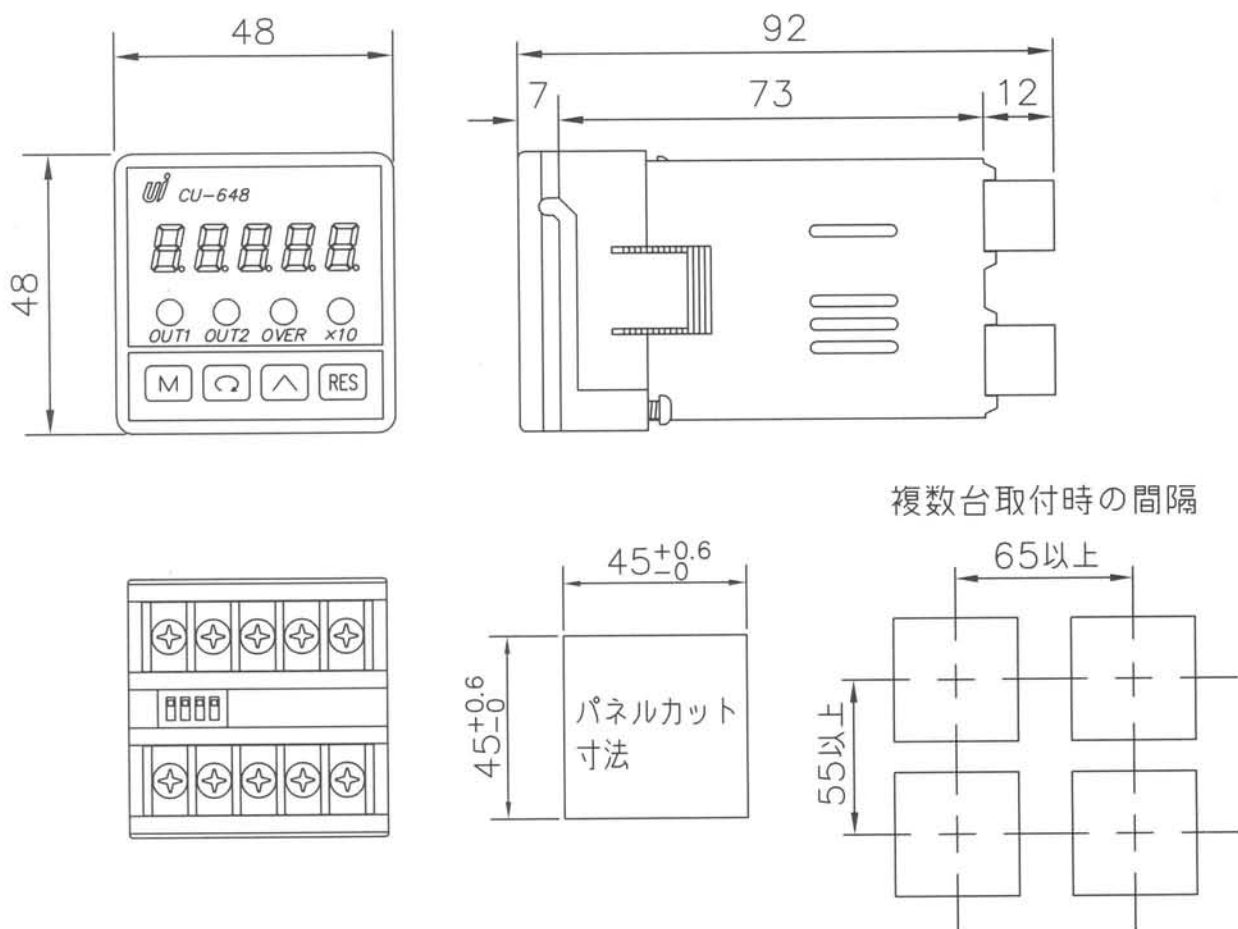


板厚0.8mm~4.0mmの
パネルに取り付けてください。

図1

3. 外観寸法図

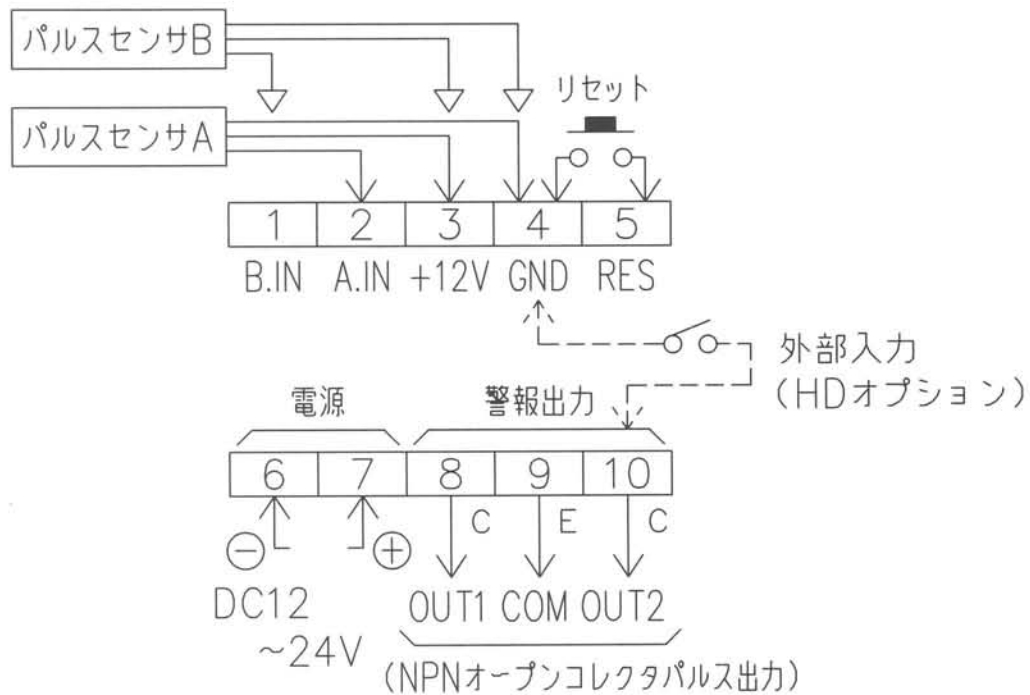
図2



単位：mm

4. 端子台の接続のしかた

図3



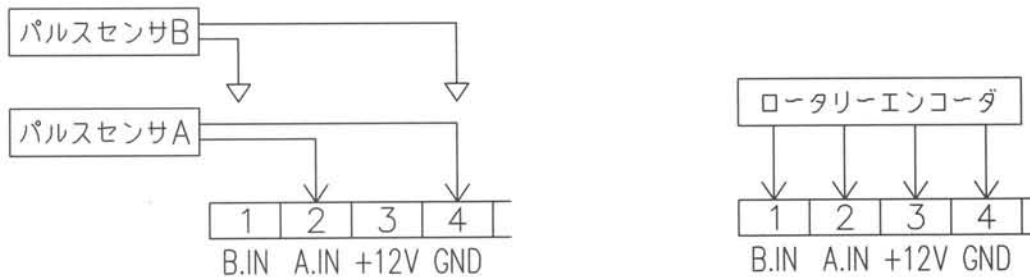
※ 警報出力OUT1とOUT2のE (COM) は共通です。

直流2線式パルスセンサ

図4

90°位相差入力

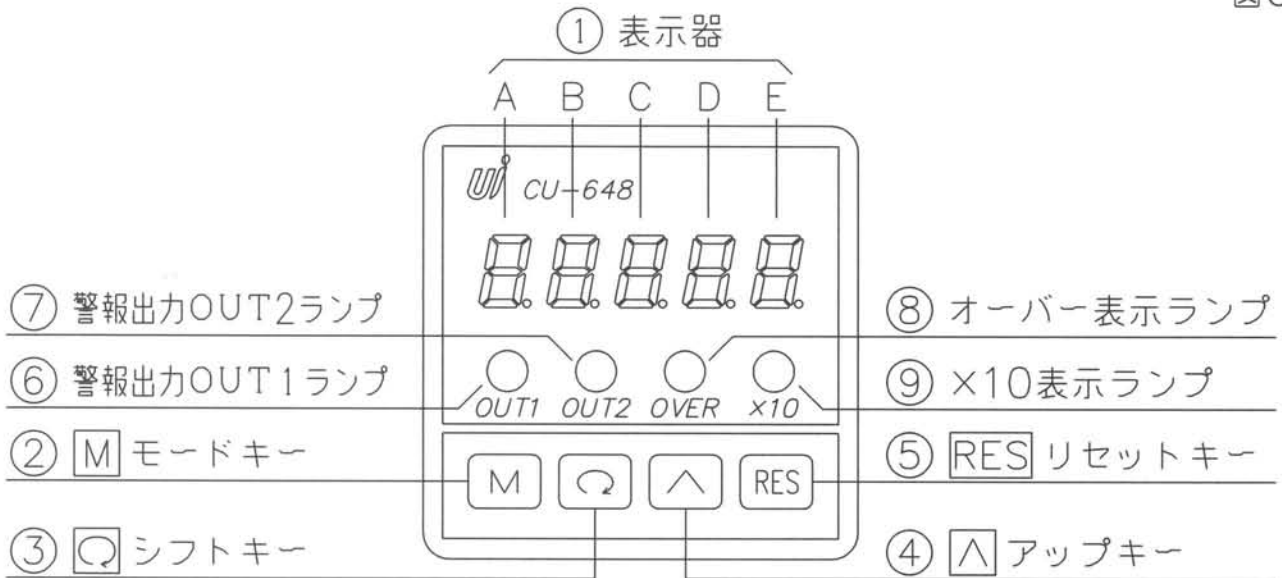
図5



- ⚠ **注意** 配線時は必ず電源を切って作業してください。
- ⚠ **注意** 今一度、仕様範囲をご確認ください。
- ⚠ **注意** DC電源入力について
誤って ⊕ ⊖ を逆に接続した場合、内部の保護回路が働き逆電流を止めます。
この時は、接続を外し約30秒後に正しい ⊕ ⊖ の接続をしてください。
正常に動作します。
- ⚠ **注意** センサの種類により入出力の配線が異なりますので、上記(図4, 5)の接続図を参照しながら配線してください。もし誤って配線しますとセンサや入出力回路が破損する恐れがあります。
- ⚠ **注意** 端子台のネジは確実に締めてください。

5. フロント部の各名称とその機能

図6



①表示器

- 1) 計測値を表示します。
- 2) モード設定時はモードNo. (A) とモード設定値 (B～E) を表示します。
- 3) 警報プリセット値、表示オフセット値設定時は各設定値を表示します。

②モードキー [M]

・各設定の呼び出し、および設定No.の切り換え時に使用します。

- 1) [M] + [シフト] 2秒以上ON・・・モード設定の呼び出し
(設定中 [M] ON → モードNo.切り換え)
- 2) [M] 2秒以上ON・・・警報プリセット値設定の呼び出し
(設定中 [M] ON → OUT No.切り換え)
- 3) [M] + [アップ] 2秒以上ON・・・表示オフセット値設定の呼び出し

③シフトキー [シフト]

・各設定中、点滅表示している桁を右へ移動させます。

④アップキー [アップ]

・各設定中、点滅表示している数字を変更します。このキーを押す度に1ずつ数値が上がっていきます。

⑤リセットキー [RES]

- 1) 計測中は、表示のリセット (“0” またはオフセット値) および警報出力を解除します。
- 2) 各設定中は、設定値を登録し、計測表示に戻します。

⑥警報出力OUT1ランプ

・警報出力OUT1が出力中に点灯します。

⑦警報出力OUT2ランプ

・警報出力OUT2が出力中に点灯します。

⑧オーバー表示ランプ

・表示が99999以上、もしくは-9999以下になった時に点灯します。

⑨×10表示ランプ

・表示値が×10されている時に点灯します。(“モード7”-Dを“2”と設定した場合)

6. ディップスイッチの設定

ディップスイッチの設定により入力応答周波数およびNPNオープンコレクタパルス入力、電圧パルス入力の切り換えができます。(本体後面の角穴にディップスイッチがあります。)

表1

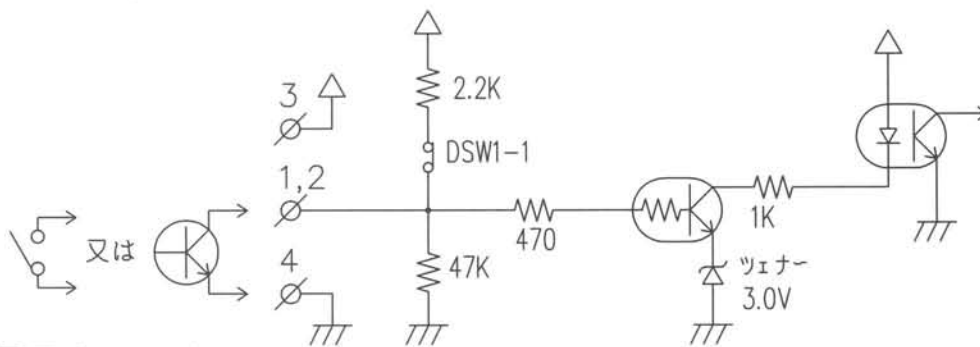
		1	2	3	4	ON ⇔ OFF
A 入力	NPNオープンコレクタパルス入力	—	ON	—	—	
	電圧パルス入力	—	OFF	—	—	
	入力応答周波数 50Hz以下 (LOW側)	—	—	—	ON	
	入力応答周波数 10kHz以下 (HI側)	—	—	—	OFF	
B 入力	NPNオープンコレクタパルス入力	ON	—	—	—	
	電圧パルス入力	OFF	—	—	—	
	入力応答周波数 50Hz以下 (LOW側)	—	—	ON	—	
	入力応答周波数 10kHz以下 (HI側)	—	—	OFF	—	

黒色が設定側

7. 入力回路の構成

(1) NPNオープンコレクタパルス入力

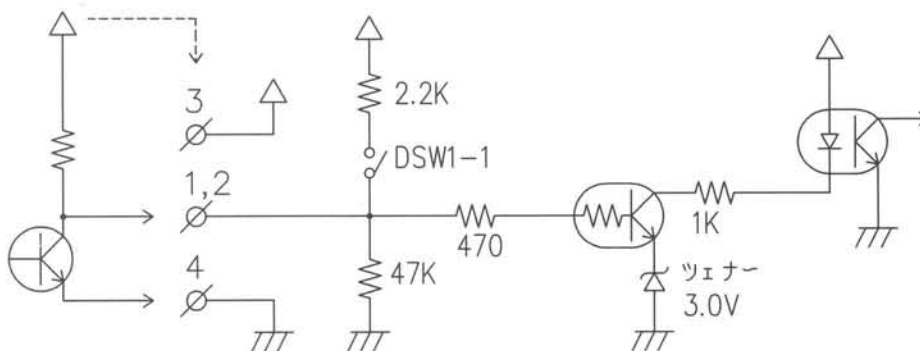
図7



△ = +12V

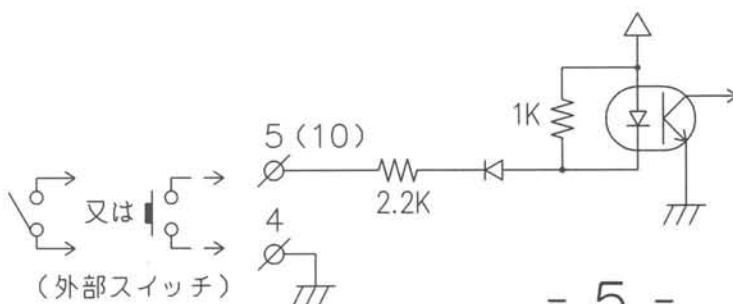
(2) 電圧パルス入力

図8



(3) リセット入力・外部入力オプション (NPNオープンコレクタパルス入力)

図9



※HDオプション時は端子4-10間が外部入力となります。このとき警報出力OUT 2は機能しません。

8. 初期設定値と初期化

事前にお客様から仕様をお伺いしている場合はその設定に合わせていますが、通常（工場出荷時）は下記（表2・表3・表4）の設定値となっています。

（1）各モードの設定値

表2

モード	初期設定値				設定記録欄			
	B	C	D	E	B	C	D	E
0.	0	0	1	0				
1.	1	0	0	0				
2.	3	0	0	1				
3.	1	0	0	0				
4.	3	0	0	1				
5.			0	0	—	—		
6.			0	0	—	—		
7.			0	0	—	—		

（2）各警報出力のプリセット設定値

表3

表示ランプ	初期設定値					設定記録欄				
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
OUT 1点灯	9	9	9	9	9					
OUT 2点灯	9	9	9	9	9					

（3）表示オフセット設定値

表4

初期設定値					設定記録欄				
A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
0	0	0	0	0					

初期化：リセットキーを押しながら電源を投入することにより初期化を行うことができます。
初期化後、各設定値は表2、表3、表4のとおりの設定値になります。

※ 正常な動作から急に表示や機能に異常が発生し、内部コンピュータが停止した場合などは、上記の方法で初期化を行い、希望の設定値に合わせて直してください。

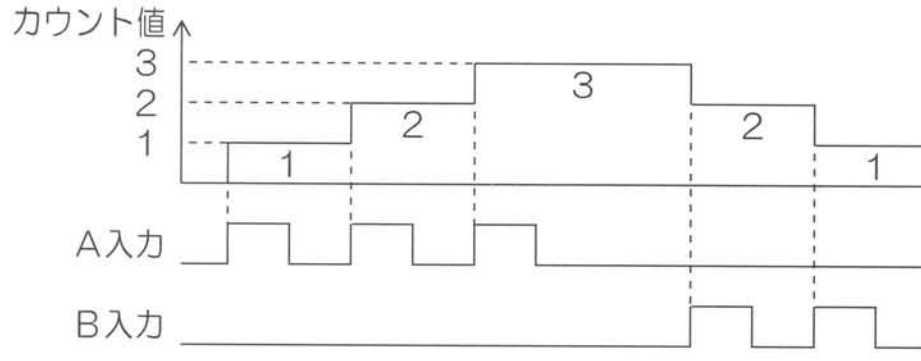
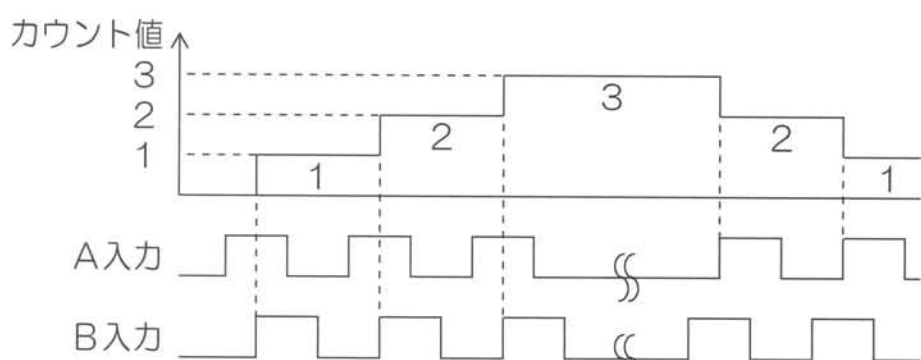
（注記）初期化を行うと現在の設定値がすべて初期設定値となりますので、初期化を行う場合は予め現在の設定値の記録を残してから実行してください。

9. モード設定の呼び出しかたと変更のしかた

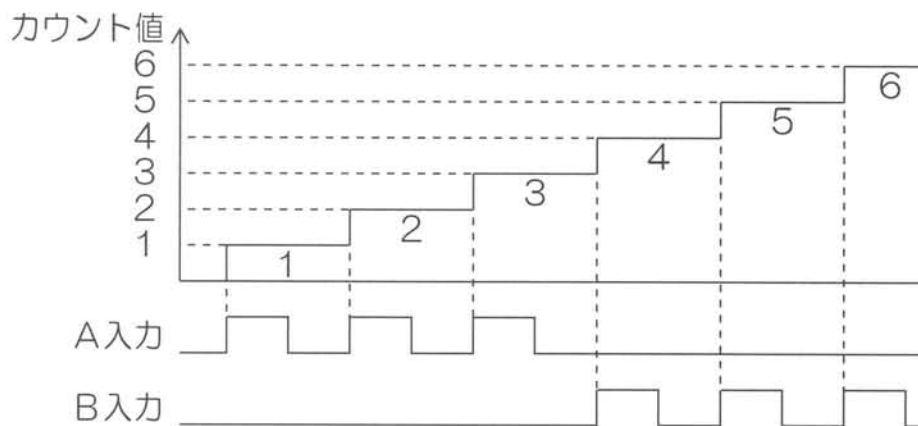
各モードを設定する時は、下図のとおり各キーの操作を行ってください。

操作キー	表示部	操作内容
$\boxed{M} + \boxed{\text{↶}}$	A B C D E 0. 0 0 1 0	\boxed{M} キーを押しながら $\boxed{\text{↶}}$ キーを2秒以上押し ます。 表示部Aに“0”が表示され、モード0が呼び出 されます。
$\boxed{\text{↶}}$	A B C D E 0. 0 → 0 → 1 → 0 └───┬───┘	点滅表示の位置（桁）を変更します。 1度押すごとに1つずつ右へ移動していきます。
$\boxed{\wedge}$	A B C D E 0. 0 1 1 0	点滅表示している数値を変更します。 1度押すごとに数値が1ずつ上がっていきます。 (0→1→・・・→9→0→・・・)
\boxed{M}	A B C D E 1 . 1 0 0 0	モードNo.を変更します。 1度押すごとにモードNo.が1ずつ上がっていき ます。モードは全部で7まであります。 7まで上がると0に戻ります。
\boxed{RES}		設定値を登録します。各設定が終了しましたら、 このキーにて登録してください。 登録終了後、計測表示へ戻ります。

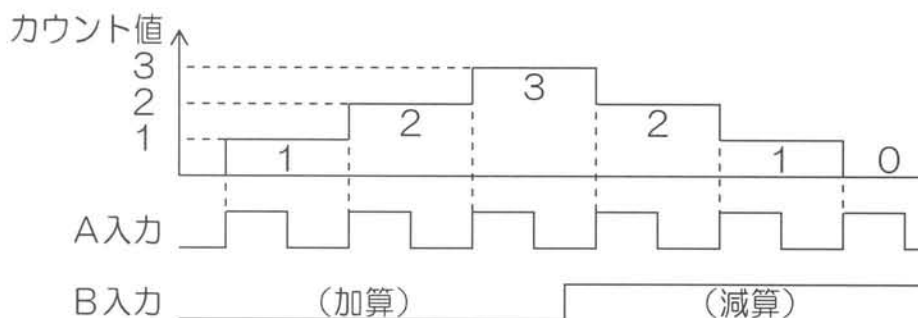
・モード内容と設定値

モードNo.	計測演算、電源ON時のリセット、リセットキーの動作・小数点位置の設定										
0	<table border="1" data-bbox="343 268 670 347"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> </tr> <tr> <td>0.</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </table> <p>→ 小数点位置 0 : 0 1 : 0.0 2 : 0.00 3 : 0.000</p> <p>→ リセットキーの動作モード 0 : リセットしない 1 : 即リセット (ONエッジ) 2 : 1秒以上押してリセット 3 : 2秒以上押してリセット (注意) 端子台リセットは、この設定に関係なく即リセットです。</p> <p>→ 電源ON時のリセットモード 0 : リセットしない 1 : リセットする</p> <p>→ 計測演算方式 (90° 位相差入力 (RE) タイプは"0"を選択してください。) 0 : A-B 1 : A+B 2 : A または -A (←B入力の OFF/ON にて切換)</p>	A	B	C	D	E	0.	0	0	1	0
A	B	C	D	E							
0.	0	0	1	0							
【計測演算方式】											
・ 0 : A-B (加減算個別入力)											
											
・ 0 : A-B (90° 位相差入力 (RE))											
											

・ 1 : A+B

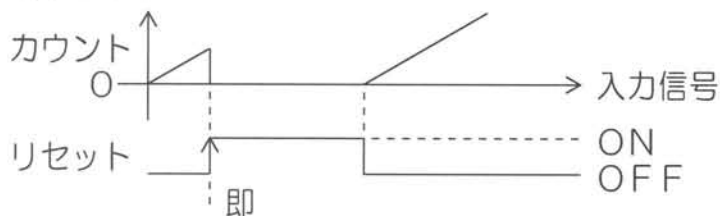


・ 2 : Aまたは-A (B入力 OFF/ON 切換)

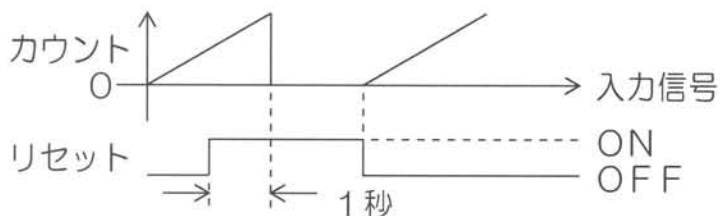


【リセットキーの動作モード】

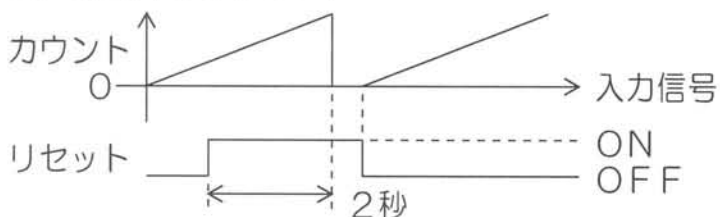
・ 1 : 即リセット









・ 2 : 1秒以上押してリセット



・ 3 : 2秒以上押してリセット



モードNo.	A入力：スケーリングデータ（換算値）の設定																				
1	<table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>1.</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table> →スケーリングデータ 0001～9999（0000は設定しないでください）	A	B	C	D	E	1.	1	0	0	0										
A	B	C	D	E																	
1.	1	0	0	0																	
<p>A入力換算値として働きます。この換算値とEXP値（10のマイナス乗数）を設定することにより、1パルス当たりの倍率を設定できます。 EXP値（10のマイナス乗数）は“モード2”で設定します。</p>																					
<p>〔例〕 1パルス当たり1.234mLの流量センサを使用して積算流量をLで表示したい場合の設定は、下記のようになります。</p>																					
<p style="text-align: center;"> 1.234mL → 0.001234L → $\frac{1234}{10^6}$ </p> <p style="text-align: center;"> 表示したい値(L)に直します ↑ ↑ 4桁数値 EXP値（乗数） </p> <p> モード1 <table border="1" style="display: inline-table; margin-left: 20px;"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>1.</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table> </p> <p> モード2 <table border="1" style="display: inline-table; margin-left: 20px;"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>2.</td><td>6</td><td>*</td><td>*</td><td>*</td></tr> </table> </p>		A	B	C	D	E	1.	1	2	3	4	A	B	C	D	E	2.	6	*	*	*
A	B	C	D	E																	
1.	1	2	3	4																	
A	B	C	D	E																	
2.	6	*	*	*																	

モードNo.	A入力：EXP値、分周器の設定										
2	<table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>2.</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> </table>	A	B	C	D	E	2.	3	0	0	1
A	B	C	D	E							
2.	3	0	0	1							
<p style="margin-left: 40px;"> → 分周器：3桁 1/1 ～ 1/999 （000 は 1/1000 とします） </p> <p style="margin-left: 40px;"> → EXP値（乗数10^{-n}）： n=0～9 </p>											
<p>【分周器】 入力何パルスで1カウントアップするかを設定します。 例えば、1回転当たりのパルス数が分かっているときに入力すると、計算上の誤差が小さくなる場合があります。</p>											
<p>〔例〕 1回転当たり3パルス出力で、1回転0.5mの送りローラを使用する場合</p>											
<table style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">入力信号</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">分周1/3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding-right: 10px;">表示値</td> <td><table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>0</td><td>0.5</td><td>1.0</td></tr> </table></td> </tr> </table>		入力信号		分周1/3		表示値	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>0</td><td>0.5</td><td>1.0</td></tr> </table>	0	0.5	1.0	
入力信号											
分周1/3											
表示値	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>0</td><td>0.5</td><td>1.0</td></tr> </table>	0	0.5	1.0							
0	0.5	1.0									

スケーリングデータ（換算器）だけでは誤差が生じますので、この場合入力を分周します。

設定としては、

モード1 $0.5\text{m} = 5000 \times 10^{-4}$

モード2 1回転あたり3パルス出力するので分周器を3と設定

これで、センサが1回転するごとに積算値が0.5ずつ上がっていきます。

<注意> 90°位相差入力の場合は、A入力とB入力のスケーリングデータ、EXP値、および分周器を同じ設定にしてください。

モードNo.	B入力：スケーリングデータ（換算値）の設定										
3	<table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <thead> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>E</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> →スケーリングデータ 0001~9999（0000は設定しないでください）	A	B	C	D	E	3	1	0	0	0
A	B	C	D	E							
3	1	0	0	0							
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> B入力換算値として働きます。この換算値とEXP値（10のマイナス乗数）を設定することにより、1パルス当たりの倍率を設定できます。EXP値（10のマイナス乗数）は“モード4”で設定します。設定方法は“モード1”と同様です。											

モードNo.	B入力：EXP値、分周器の設定										
4	<table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <thead> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>E</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>4</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr> </tbody> </table> <div style="margin-left: 40px;"> <p>→ 分周器：3桁 1/1 ~ 1/999 (000 は 1/1000 とします)</p> <p>→ EXP値（乗数10^{-n}）： n=0~9</p> </div>	A	B	C	D	E	4	3	0	0	1
A	B	C	D	E							
4	3	0	0	1							
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> B入力のEXP値・分周器を設定します。設定方法は“モード2”と同様です。											

モードNo.	OUT 1 : 警報出力の設定										
5	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table> <p> ↳ 出力モード (2~9は1ショット出力) 0 : 比較 5 : 100ms 1 : 保持 6 : 250ms 2 : 10ms 7 : 500ms 3 : 20ms 8 : 1sec 4 : 50ms 9 : 2sec </p> <p> ↳ 上下限選択 0 : 上限 1 : 下限 </p> <hr/> <p> 【上下限選択】 0 : 上限・・・表示値がプリセット値以上の時に警報出力します。 1 : 下限・・・表示値がプリセット値以下の時に警報出力します。 </p> <hr/> <p> 【出力モード】 警報出力の出力時間を設定します。 0 : 比較・・・表示値がプリセット値の上限、または下限の間、出力します。 表示値が上限、または下限の範囲外(条件外)であれば出力はOFFになります。 1 : 保持・・・表示値がプリセット値の上限、または下限になった時に出力します。 表示値が上限、または下限の範囲外(条件外)であってもリセットされるまで出力はOFFになりません。 2~9 : 1ショット・・・表示値がプリセット値の上限、または下限になった時に設定された幅のパルスを1度出力します。 </p>	A	B	C	D	E	5.			0	0
A	B	C	D	E							
5.			0	0							

モードNo.	OUT 2 : 警報出力の設定	(HDオプション時は設定不要)										
6	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table> <p> ↳ 出力モード (2~9は1ショット出力) 0 : 比較 5 : 100ms 1 : 保持 6 : 250ms 2 : 10ms 7 : 500ms 3 : 20ms 8 : 250ms (0復帰) 4 : 50ms 9 : 500ms (0復帰) </p> <p> ↳ 上下限選択 0 : 上限 1 : 下限 </p> <hr/> <p> 【0復帰】 表示値がプリセット値の上限、または下限になった時に設定された幅のパルスを出力し、表示をオフセット値に戻します。 </p> <hr/> <p> 設定方法は“モード5”(警報出力OUT 1)と同様です。 </p>	A	B	C	D	E	6.			0	0	HDオプション付きは、警報出力OUT2ランプは反応しますが、出力はされません。
A	B	C	D	E								
6.			0	0								


モードNo.	オーバー表示、外部入力の設定										
7	<table border="1" data-bbox="336 226 667 309"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7.</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="560 327 1265 707"> ↳ 外部入力機能 (HDオプション付きのみ) 0: 禁止入力 1: ホールド入力 2: モードプロテクト入力 </p> <p data-bbox="560 551 1002 707"> ↳ オーバー表示 0: 3ラウンドストップ 1: エンドレス 2: ×10表示 </p>	A	B	C	D	E	7.			0	0
A	B	C	D	E							
7.			0	0							
<p data-bbox="316 750 1445 831">【オーバー表示】表示値が“99999”以上、もしくは“-9999”以下になった時の表示方法を選択します。</p> <p data-bbox="331 831 1445 1108"> 0: 3ラウンドストップ 1回目の表示オーバーでオーバー表示ランプが点灯し、表示“0”から再カウント。 2回目の表示オーバーで表示“00000”から再々カウント。 3回目の表示オーバーで“99999” (または“-9999”) で点滅表示。 (※内部では計測を続けていますが、再度計測を始める場合は、一度リセットしてください。) </p> <p data-bbox="331 1108 1445 1310"> 1: エンドレス エンドレスで表示します。表示オーバーでオーバー表示ランプが点灯し、表示“00000”から引き続きカウントを行います。以降これを繰り返します。 (※警報出力は解除されません。) </p> <p data-bbox="331 1310 1445 1556"> 2: ×10表示 1回目の表示オーバーで、表示が×10倍 (左シフト) します。 2回目の表示オーバーでオーバー表示ランプが点灯し、“99999” (または“-9999”) で点滅表示。 (※内部では計測を続けていますが、再度計測を始める場合は、一度リセットしてください。) </p>											
<p data-bbox="309 1592 1445 1637">【外部入力機能】HDオプション付き時 端子台4-10間の入力機能を選択します。</p> <p data-bbox="328 1637 1445 1794"> 0: 禁止入力……………ONの間、センサの入力を受け付けません。 1: ホールド入力……………ONの間、現在の表示値を保持し点滅表示します。 2: モードプロテクト入力…ONの間、各設定値の変更を不可にします。 (設定中にキー操作を無効にします。) </p>											

10. 警報プリセット値設定の呼び出しかたと変更のしかた

警報出力時の上限および下限のプリセット値（設定値）を設定します。
設定範囲は、-9999~0~99999となっています。

操作キー	表示部	操作内容
	A B C D E 9 9 9 9 9 ● ○ OUT1 OUT2	2秒以上押します。 OUT1ランプが点灯して、OUT1のプリセット値設定となります。
	A B C D E 9 → 9 → 9 → 9 └──────────┘ ● ○ OUT1 OUT2	点滅表示の位置（桁）を変更します。 1度押すごとに1つずつ右へ移動していきます。
	A B C D E 9 0 9 9 9 ● ○ OUT1 OUT2	点滅表示している数値を変更します。 1度押すごとに数値が1ずつ上がっていきます。 (0→1→・・・→9→0→・・・)
	A B C D E 9 9 9 9 9 ○ ● OUT1 OUT2	OUT2ランプが点灯して、OUT2のプリセット値設定となります。 上記と同様に  キーと  キーで希望の設定値に合わせてください。
		設定値を登録します。各設定が終了しましたら、このキーにて登録してください。 登録終了後、計測表示へ戻ります。

(注記1) 小数点は、“モード0”(P.8)で設定した位置に連動して表示されます。

(注記2) 表示器Aを設定中に  キーを押していくと、9の次が“-”(マイナス)表示になり(→9→-→0→)、-9999までマイナス数値を設定できます。

1.1. 表示オフセット値設定の呼び出しかたと変更のしかた

リセット後の表示値を設定します。例えば、オフセット値を“01000”と設定した場合、リセットすると表示値は“1000”となります。計測表示はこの“1000”の値より行います。“0”より行いたい場合はオフセット値を“00000”と設定してください。設定範囲は、-9999~0~99999となっています。

操作キー	表示部	操作内容															
M + Λ	<table style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	A	B	C	D	E	0	0	0	0	0	M キーを押しながら Λ キーを2秒以上押し ます。 現在の設定値を表示します。					
A	B	C	D	E													
0	0	0	0	0													
	<table style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td colspan="5">└──────────┘</td></tr> </table>	A	B	C	D	E	0	0	0	0	0	└──────────┘					点滅表示の位置（桁）を変更します。 1度押しごとに1つずつ右へ移動していきま す。
A	B	C	D	E													
0	0	0	0	0													
└──────────┘																	
Λ	<table style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr> <tr><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	A	B	C	D	E	0	1	0	0	0	点滅表示している数値を変更します。 1度押しごとに数値が1ずつ上がっていきま す。 (0→1→・・・→9→0→・・・)					
A	B	C	D	E													
0	1	0	0	0													
RES		設定値を登録します。各設定が終了しましたら、 このキーにて登録してください。 登録終了後、計測表示へ戻ります。															

(注記1) 小数点は、“モード0”(P.8)で設定した位置に連動して表示されます。

(注記2) 表示器Aを設定中に **Λ** キーを押していくと、9の次が“-”(マイナス)表示になり
(→9→-→0→)、-9999までマイナス数値を設定できます。

(注記3) オフセット値から計測を始めるときは必ずリセットしてください。

ユーアイニクス株式会社

【本社】

〒593-8311 大阪府堺市上123-1
TEL: 072-274-6001, FAX: 072-274-6005

【東京営業所】

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町17番地ファーストビル7階
TEL: 03-5256-8311, FAX: 03-5256-8312

【名古屋営業所】

〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社2丁目30番地東名グランドビル9階
TEL: 052-704-7500, FAX: 052-704-7499

※ 改良のため、仕様などは予告無く変更する場合がありますので予めご了承ください。